

第四部

中大法曹会創立五〇周年行事

中央大学法曹会50周年記念行事式次第

(講 演) 平成13年9月25日(火) 午後4時

元法務大臣 保 岡 興 治 殿

「21世紀の国家戦略と司法制度改革」

(式 典) 平成13年9月25日(火) 午後5時

	司 会	鈴 木 康 洋	
1 開 会 の 辞	委員長代行	横 山 昭	
2 挨 拶	委 員 長	滝 沢 國 雄	
3 式 辞	幹 事 長	松 家 里 明	
4 祝 辞	中央大学理事長	阿 部 三 郎	殿
	中央大学学長	鈴 木 康 司	殿
	中央大学学員会会長	大 西 保	殿
5 閉 会 の 辞	副 幹 事 長	石 渡 光 一	

(祝賀会) 平成13年9月25日(火) 午後6時

	司 会	村 山 芳 朗	
1 開 宴 の 辞	祝宴部会長	榊 原 卓 郎	
2 祝 辞	中央大学評議員会議長 南 甲 倶 楽 部 会 長	高 橋 季 義	殿
	国会白門会会長	中 山 正 暉	殿
3 乾 杯	学術研究団体連合会委員長	島 田 一 彦	殿
4 懇 談	(アンサンブル演奏)		
5 校 歌 斉 唱			
6 閉 宴 の 辞	副 幹 事 長	丹 羽 健 介	

中央大学法曹会50周年記念行事出席ご来賓名簿

中央大学理事

理 事 長	阿 部 三 郎
学 長・理 事	鈴 木 康 司
常 任 理 事	辰 川 弘 毅
常 任 理 事	浜 田 惟 道
学 員 会 副 会 長	三 宅 邦 彦
常 任 理 事	上 岡 君 義
理 事	長 内 了
理 事	北 村 敬 子
商 学 部 長	久 保 田 榮 一
理 事	中 津 靖 夫
南 甲 俱 楽 部 常 任 理 事	廣 瀬 秀 吉
理 事	松 家 里 明
学 員 会 副 会 長	松 崎 勝 一
理 事	程 島 俊 介
理 事	
事 務 局 長	

中央大学監事

監 事	及 川 昭 二
監 事	川 村 親 慶
南 甲 俱 楽 部 専 務 理 事	廣 橋 眞 光
監 事	

中央大学評議員会

議 長	高 橋 季 義
南 甲 俱 楽 部 会 長	柳 澤 義 信
副 議 長	

学 部 長

法 学 部 長	永 井 和 之
学 員 会 副 会 長	

中央大学大学院法学研究科

委 員 長	椎 橋 隆 幸
-------	---------

中央大学法職講座運営委員会

委 員 長	三 和 一 博
-------	---------

日本比較法研究所

所 長	木 下 毅
-----	-------

中央大学事務局

学 長 室 長	福 田 孝 志
文 書 課 長	藤 本 義 明
秘 書 課 長	中 村 晋 明
法 職 事 務 室 長	相 沢

中央大学学員会

名 誉 会 長	堂 野 達 也
中 央 大 学 顧 問	
会 長	大 西 保
副 会 長	大 市 橋 千 鶴 子
副 会 長	安 原 正 之 昭
事 務 局 長	佐 藤 信

国 会 白 門 会

会 長	中 山 正 暉 治
元 法 務 大 臣 衆 議 院 議 員	保 岡 興

中央大学南甲倶楽部

常 任 理 事	小 笠 原 英 一
常 任 理 事	加 藤 金 之 助
常 任 理 事	澤 幡 仁
常 任 理 事	関 谷 宣 信
常 任 理 事	出 口 純 輔
常 任 理 事	中 村 重 郎
常 任 理 事	藤 森 宏 一
常 任 理 事	前 島 夫 久
最 高 裁 判 事	深 澤 武

預金保険機構

理 事 長	松 田 昇
-------	-------

日本弁護士連合会

副 会 長	丹 羽 健 介
第 一 東 京 弁 護 士 会 会 長	

東京檢察支部

顧問(東京高等檢察庁検事長)	松 浦 恂 夫
支部長(最高檢察庁次長検事)	甲 斐 中 辰 夫

学術研究団体連合会等

委 員 長	島 田 一 彦
真 法 会 支 部 長	多 田 武 夫
済 美 会 支 部 長	荻 原 静 夫

中央大学法曹会支部

福岡支部支部長	湯 川 久 子
---------	---------

五〇周年記念大会の舞台裏

実行委員会委員長代行

横山 昭

一 平成一二年中大法曹会第二五代猪股喜蔵執行部は「中大法曹会創立五〇周年記念行事施行」を決定し、かつその期日を「平成一三年九月二五日」と指定して同年九月準備委員を選任した。

しかして、準備委員会は、過去三〇周年四〇周年各大会の先例を参考として、より機能的準備を計るため財務・接待・懇親・式典・講演・記念誌刊行及び総務等の担当部会を設け、右各部会ごとに行事内容を検討するための小委員会を開催、更に全体委員会において全体的検討という組織を作り、その後右組織のまま名称を実行委員会と改称し精力的にその準備につとめた。

二 ところで、私共が最も意を用いたのは、行事施行の成功か否かは金（予算）であることに鑑み「先ず行事ありき」ではなく「先ず大会費用ありき」ことを肝要と認識し、深沢守財務部会長を中心にそ

の集金方法につき頻繁に部会を開催し、会員からの拠出金をいかにして多く収納するかについて、その実践に苦慮してきた。

中大出身法曹は、在野の弁護士だけでも全国に三〇〇〇余名といわれ、うち在京にも二〇〇〇余名の多数会員があるので、地方会員を除き在京会員一人五〇〇〇円宛の平均的拠出を原則としてその半数の協力は得られると想定し目標を五〇〇万円プラスアルファと想定した。

三 しかし、現実論としては、かかる想定による拠出協力は絵に描いた餅に等しい危惧があったので、大学内外又は法曹会内外において、いうところの名譽職的地位にある会員又は過去にあった会員による拠出金で、目標額の七、八〇パーセントを収納することにしてそのランクによる応分の額を定めて拠出方を要請することの特則を定めた。

因に大学関係では理事、監事、評議員、商議員その他大学機関関係者、在野法曹関係では日弁連、単位会、関弁連その他の機関における正副会長、理事長、理事、監事、議長、また学員会関係では正副会長、幹事、支部長、協議員、また中大法曹会では正副幹事長、その他公職関係では日調連、東調連、参調連の正副会長および研修所教官等々の会員にはそれぞれの地位において最高一〇万円とし、その地位に応じたそれぞれ拠出額につきランクを定めた。

四 翻って、中大法曹会員の多くは学研連関係者が多数であるところから、実行委員会は学研連の協力

は必須と考えて、学研連の協賛を得ることにした。

五 果たせるかな、会員に対し拠出要請（前記特別拠出者については、半強制の誘りは免れない）をしたところ、目標額を遥に超えて一二〇〇万余の拠出金の集納をみた。実行委員会としては、ここに改めて拠出者会員の方々に深く感謝を申し上げる次第である。

かくして、平成一三年九月二五日弁護士会館のクレオにおける記念大会は来賓及び会員多数の臨席と参加を得て盛大に施行し、私共実行委員会も面目を施した。

追って、

深沢部会長には事務所を挙げて拠出者名簿、拠出額を数か月にわたり克明に記録をとられ、また十数回の部会開催に奉仕していただいた実質的な功労者であることを付記して会員に披露しておく。

中央大学法曹会事務局報告

事務局長

奈良道博

中央大学法曹会創立五〇周年記念行事は、平成一三年九月二五日盛大に挙行され、おかげさまで成功裏に終了しました。ご出席いただいた御来賓の皆様には厚く御礼を申し上げます。また、献身的なご尽力をいただいた実行委員会の委員をはじめご協力いただいた会員の皆様に事務局として心より感謝申し上げます。

一 実行委員会の活動

中央大学法曹会創立五〇周年記念行事実行委員会は、滝澤國雄実行委員長、横山昭実行委員長代行の元に、接待部会・式典部会・祝宴部会・記念講演部会・財務部会・記念特集号編集部会・総務部会の七つの部会が設けられ、各部会でご検討いただいた内容を、正副部会長会議に諮るという形で、運営され

ました。各部会とも精力的に活動していただき、またこれを受けた正副部会長会議も半年の間に八回にわたり開催させていただき、おかげさまで万全の体勢で当日に望むことが出来ました。

二 記念行事報告

(当日の出席者)

招待者	五二名
会員	一一六名
合計	一六八名

(収支報告)

○収入

賛助金	一一、八五一、五一四円
祝い金	四二〇、〇〇〇円
執行部預かり金	五〇〇、〇〇〇円
合計	一二、七七一、五一四円

○支出

各種費用(記念誌発行関係諸経費を除く)

三、九一八、一五七円

執行部預かり金返金

五〇〇、〇〇〇円

合計

四、四一八、一五七円

○残高

八、三五三、三五七円

以上ご報告申し上げます。

中央大学法曹会創立五〇周年記念式典部会報告

式典部会長

鈴木康洋

一 構成

部会長 鈴木康洋

副部会長 岩田 豊 大井勅紀 山岸憲司

部会員 岸 巖 堀合辰夫 高谷圭一

本間 崇 松尾紀良 大西昭一郎

大谷隼夫 鈴木喜久子

二 経過

(一) 式典部会は、本会創立五〇周年記念事業の冒頭を飾る主要行事であるため、厳粛のうちにも余り堅苦しい雰囲気にならないよう配慮しながら、常に祝宴部会との連携を念頭において意見交換を行っ

た。

先ず「式次第」については、創立三〇周年記念式典式次第、同記念祝賀会次第並びに創立四〇周年記念式典式次第を参考にしながら検討の結果、次のとおり部会としての検討案を作成した。

中央大学法曹会創立五〇周年記念式典式次第（案）

司会 事務次長（横 溝 高 至）

一 開会の辞 記念行事実行委員会式典部会長 鈴木康洋

二 挨拶 同実行委員会委員長 瀧澤國雄

三 式 辞 中央大学法曹会幹事長 松 家 里 明

四 祝 辞 学校法人中央大学理事長 阿 部 三 郎

学校法人中央大学学長 鈴木康司

学校法人中央大学学生会会長 大 西 保

五 閉会の辞 副幹事長 （石 渡 光 一）

この部会案作成に当って特に配慮したことは、先例を参考にしながら、祝辞をいただく方々について、祝宴の方で祝辞をいただく方と式典の方で祝辞をいただく方の調整並びに以下の行事の進行に影響しないよう限られた時間帯のなかで何名の方から、甚だ恐縮なことはありませんが、どの程

度の時間の範囲で祝辞をいただくであつた。

(二) 次いで、正副部会長会議並びに全体委員会に、先の式典部会としての検討案を報告し、とくに祝宴部会の進行次第との調整を考慮に入れながら、改めて意見交換を行った結果、次のとおり記念式典次第を決定した。

中央大学法曹会創立五〇周年記念式典式次第

一	開会の辞	司会	鈴木康洋
二	挨拶	記念行事実行委員会委員長代行	横山昭
三	式辞	同実行委員会委員長	瀧澤國雄
四	祝辞	中央大学法曹会幹事長	松家里明
		学校法人中央大学理事長	阿部三郎
		学校法人中央大学学長	鈴木康司
		学校法人中央大学学員会会長	大西保
五	閉会の辞	中央大学法曹会副幹事長	石渡光一

(注) 1 式辞・祝辞については、ともに五分内外の時間帯のなかでお願いすることとした。

2 会場の設営については、法曹会執行部の協力をいただいたが、演壇正面にスタンド

マイク、壇上左翼に来賓用として椅子三、同右翼に挨拶を願う委員長外のため椅子三をセツトし、開会宣言と同時にそれぞれご登壇、着席を願った。

以上簡単ではございますが、式典部会としての報告に代えさせていただきますが、当日の進行は関係各位の協力のもと滞りなく終始したことに改めて心より感謝を申しあげます。又、岩田 豊、大井勅紀両先生からは貴重な関係資料の提供を願ったことについて厚く御礼を申しあげる次第です。

財務部会

財務部会長

深 沢 守

一 正確には覚えていないが、平成二二年八月中旬頃、当時の中大法曹副幹事長川村延彦先生から「来年の九月、中大法曹創立五〇周年記念祝賀会を開催するので、その役員を選衝した結果、先生には財務のほうの責任者になってもらうことになった」という電話連絡があった。つまり、欠席判決である。もっとも、この役目は、要するに会計係であるから、収入・支出を正確に把握して記帳しておくのが役目だと理解していたから、ほとんど抵抗もしないで簡単に財務部長を引受けた次第であった。

財務部長という職責がそのような安易なものではなく、五〇周年記念祝賀会に必要な資金を、これから中大法曹会員から集めるのが主たる任務だと聞かされて青くなってしまった。わたくしがそのことに気付いたのは、猪俣喜蔵幹事長の主宰する第一回正副部会長会議の席であったのだから何とも情けない話である。

二 財務委員会の活動は、こうして、当時の猪俣喜藏幹事長の大号令のもとに始まったのだけでも、平成一二年九月初旬の段階では、記念行事の予算規模、賛助金（寄付金）の募集方法、とりわけ中大法曹会会員に記念行事の趣旨を理解して頂くにはどうしたらよいかなど、すべて白紙の状態であった。

何事を成すにも先立つものがなくては事は進まない。財務委員会は、平成一二年度中合計九回の委員会を開催して、賛助金の募集を求める要請文の作成、記念行事の予算の把握、法曹界における経歴による賛助金の基準額の策定など、次第になすべき仕事の輪郭を明らかにして行った。

この間にあって、財務委員会を終始リードして頂いたのは記念行事実行委員長代行横山昭先生である。賛助金要請文並びに賛助金基準一覧表などすべて同先生の原案になるものであって、財務委員会はこれに若干の修正を施したに過ぎない。

また、東京地検公安部牧野忠検事についても一言触れておきたい。同氏は、超多忙の中にも拘わらず、毎回委員会に出席され、中大出身の検事諸公の動行を調査して報告して下さった。法曹官僚（とりわけ裁判官）の内には中大出身者であることの公表をためらう風潮もあると聞く中で同氏の協力には頭の下る思いがあった。

三 当初は、随分心配した記念行事の内容も年が替わって平成一三年の春頃になると、具体的になり、財務委員会に課せられた賛助金募集額もおよそ金七〇〇万円となったが、程なく最低でも金八〇〇万円を募集せよということに修正された。

後述のように、賛助金募集は、予想外の好結果に終わったのであったが、これには、三つの幸運が重なったと思っている。

その一は、何よりも中大法曹会員各位の中大法曹に寄せる強い思いがあったことに加えて、川村副幹事長はじめ、財務副部長諸氏（東弁大高満範氏、一弁木戸弘氏、二弁嘉本益巳氏）の各弁護士会員への献身的働きかけがあったこと、その二は、印刷事務などを依頼した高千穂印刷に「中大法曹会員名簿」が保存されており、これに必要な補正を加えて利用できたこと、その三は、賛助金振込口座をわたくしの事務所と同じビル内にある「サンシャイン六〇内郵便局」に設定したことにより、同郵便局から賛助金振込月日、振込人氏名・所属会並びに振込金額を、時々刻々機械的にわたくしの事務所宛に連絡してくれたことである。その状況は直ちに各会副部長に連絡され未振込の先生方をたちどころに把握することができた。このことは、賛助金募集をかなり容易にしたものと考えている。

四　ともあれ、賛助金の募集は、極めて好調なすべり出しを示し、賛助金要請文を発送（平成一三年七月初旬）した一週間後には金四、〇〇〇、〇〇〇円を超える振込があり、七月末日にはすでに金六、四一六、五一四円、八月一四日の時点では目標額を上回る金八、一九六、五一四円の賛助金が寄せられてしまった。

財務部会としては、その時点で募集を打ち切るべきであったかも知れない。しかし、中大法曹会としては打ち切れない事情もあって（そのことは、他の筆者が書くことであろう）、本来賛助金要請が困難

であつた檢察庁関係、公証人関係、裁判官関係の法曹各位には賛助金を要請しないこととするにとどめ、弁護士各位からは従前どおり継続して賛助金を仰ぐこととした。その結果、八月二三日には金一〇、〇〇〇、〇〇〇円を突破し、最終的には金一一、六七一、五一四円（記念式典当日分を含む）に達することとなつた次第である。

平成一三年九月二五日に開催された中大法曹五〇周年記念祝賀会は会員各位の御厚志により成功裡に幕を閉じることができた。省みれば、中大法曹会員各位に対しては随分ご無理を申し上げてしまった。紙上をお借りしてお詫びと御礼を申し上げる次第である。

以上

中央大学法曹会50周年記念行事实行委員会名簿

(1) 接 待 部 会	牧 野 忠	(東京地検公安部)
	及 川 昭 二	(東 弁)
	森 田 昌 昭	(一 弁)
	小 野 道 久	(二 弁)
(2) 式 典 部 会	鈴 木 康 洋	(東 弁)
	山 岸 憲 司	(東 弁)
	岩 田 豊	(一 弁)
	大 井 勅 紀	(二 弁)
(3) 祝 宴 部 会	榊 原 卓 郎	(東 弁)
	中 村 浩 紹	(東 弁)
	山 本 隆 幸	(一 弁)
	村 山 芳 朗	(二 弁)
(4) 記念講演部会	橋 本 和 夫	(東京家裁家事第4部)
	浅 見 昭 一	(東 弁)
	安 西 愈	(一 弁)
	新 井 嘉 昭	(二 弁)
(5) 財 務 部 会	寺 尾 洋	(東京地裁)
	深 沢 守	(一 弁)
	木 戸 弘	(一 弁)
	嘉 本 益 己	(二 弁)
(6) 記念特集号 編集部会	大 高 満 範	(東 弁)
	中 津 靖 夫	(二 弁)
	白 井 正 明	(東 弁)
	荻 原 静 夫	(一 弁)
(7) 総 務 部	杉 井 静 子	(二 弁)
	千 葉 雄 一 郎	(司法研検察教官)
	友 野 喜 一	(一 弁)
	稲 田 寛	(東 弁)
実 行 委 員 長 実行委員長代行	金 澤 恭 男	(東 弁)
	奈 良 道 博	(一 弁)
	行 方 美 彦	(二 弁)
	瀧 澤 國 雄	(東 弁)
	横 山 昭	(東 弁)

